

## 資生堂のフレグランス「資生堂 ZEN」、ISS FORUM 2001 (第1回国際宇宙ステーション会議)の民間利用例として取り上げられる

資生堂のフレグランス「資生堂 ZEN」が、6月5日(火)～7日(木)の3日間、ドイツのベルリンで開催される ISS FORUM 2001 (International Space Station Forum: 第1回国際宇宙ステーション会議)で、宇宙空間での実験をもとに実用化された商品の一例として取り上げられます。「資生堂 ZEN」には、スペースシャトル「ディスカバリー号」内で行なった実験をもとに再現した香りである「スペースローズ」を配合しています。

### ISS FORUM 2001 の概要

ISS FORUM 2001 は、NASA (アメリカ航空宇宙局)、ROSAVI AKOSMOS (ロシア航空宇宙局)、ESA (ヨーロッパ宇宙局)、NASDA (日本宇宙開発事業団)、CSA (カナダ宇宙局) が一同に会し開催される初めての国際会議です。当会議では、宇宙ステーション事業の現状を紹介し、今後の活発な民間利用をはたらかけることを目的としています。各団体の代表者、各国大使館関係者、宇宙開発研究者、民間の宇宙開発事業関係者など約 500 人以上が招待されるほか、入場料 300 マルクで一般の方の見学も可能です。また開催期間中、当社を含め宇宙開発と関わりのある 20 以上の企業がパネル展示を行います。ISS FORUM は、2002 年にはアメリカでの開催が予定されています。宇宙ステーション事業の民間利用は、宇宙開発事業の実現化に伴い、今後ますます活発になることが予想されます。

開催場所: Hotel Estrel, Sonnenallee 225 D-12057 Berlin, Germany

スケジュール: 6月5日(火) 14:00～17:30 宇宙ステーション事業の現状と民間利用例  
6月6日(水) 9:00～17:30 各団体の現状と今後の計画  
6月7日(木) 9:00～13:00 専門家による円卓会議

### 「資生堂 ZEN」と資生堂の宇宙開発への取組み

「資生堂 ZEN」は、2000年10月より日本を含む世界約60カ国で販売を開始したフレグランスです。当商品には、1998年10月～11月にかけてスペースシャトル「ディスカバリー号」内でNASAとIFF (International Flavors & Fragrances) の共同研究の一環として、ジョン・H・グレン飛行士(NASA) および向井千秋飛行士(NASDA) が行なった実験に基づいて再現した香料「スペースローズ」を配合しています。この成果が注目され、「資生堂 ZEN」が、第1回国際宇宙ステーション会議の中で、民間企業による宇宙実験成果の活用例として日本で唯一、また世界の化粧品企業でも唯一取り上げられることになったものです。

資生堂は、「長期間にわたり狭い空間での生活を強いられる宇宙ステーション内での厳しいストレス」に着目し、1998年よりNASDAと協力して宇宙空間を想定した香りによるストレス緩和効果実験を開始しました。資生堂は今後も実験を継続し、その成果を地上でのストレス緩和にも応用したいと考えています。当社は、宇宙空間が将来的に新たな人類の活動の場になると捉え、香りの分野にとどまらず皮膚科学などの分野でも宇宙空間を利用した様々な研究成果を応用していく予定です。

\*「スペースローズ」は、「ディスカバリー号」内の無重力空間で「オーバーナイトセンセーション」という品種のバラの香りを捕集し、地上で再現した香りです。「オーバーナイトセンセーション」の香りより繊細で爽やかな印象をもっています。

## [ 参考資料 ]

### 「資生堂 ZEN」の概要

- 商品名 : 「資生堂 ZEN」(5品目5品種)  
発売 : 2000年10月  
発売地域 : 世界約60ヶ国で順次発売  
価格 : 3,000円～5,500円(税抜き希望小売価格)  
特徴 : 21世紀に向けて、最新のアロマロジー(香りがもたらす生理的・心理的効果)技術とプレステージ性を融合させたフレグランス。香りをかぐことによってアルファ波を増加させる成分と、ストレスホルモンを低下させる成分を配合しています。また禅寺の庭園にヒントを得た杉苔、孟宗竹に加え、「ディスカバリー号」内での実験の成果である「スペースローズ」を配合し、全体として心に安らぎをもたらす香りとなっています。「スペースローズ」は、「資生堂 ZEN」のなかで、ミドルノート(肌につけてから約30分後の香り)を構成する香りの1つとして使用され、静寂と自然を表現しています。  
ボトルのフォルムは、合掌した両手をモチーフにしています。透明感があり光を感じさせる質感の白いボトルは、無垢で清浄なイメージを表現しています。

### 資生堂の研究開発について

資生堂は、1872年、日本初の西洋風調剤薬局として東京 銀座に創業しました。1897年には、西洋薬学処方に基づく化粧水「オイデルミン」を発売し、化粧品事業を開始しました。以来、資生堂は、「西洋と東洋の文化の融合から、新たな価値を創造するとともに、最先端の皮膚科学に裏付けられた商品を、適切な美容法とともにお客さまに提供し、美しくなっていく」という一貫した考えのもと、化粧品事業を中核に企業活動を展開しています。

資生堂のR&Dは、皮膚生理研究に基づく薬剤の開発、その使用効果や肌への安全性の分析と評価を行ってきましたが、時代の流れとともに高度化・専門化し、現在では分子生物学や細胞生物学などの見地からライフサイエンス領域の研究も行っています。また神経・免疫など全身系へと、研究対象領域を拡大しています。資生堂は、21世紀の化粧品を、心とからだと肌のつながりをベースに、身体の内と外からホメオスタシスを高めるものになる、と捉えています。「こころと皮膚の相互作用」というまったく新しい観点から、皮膚生理学、薬理学、さらには製剤技術といった最新の化粧品技術と、時代に適した美容法というソフトウェアの融合により、世界の人びとの「美しく健康な肌を保ちたい」という願いの実現に貢献していきたいと考えています。